

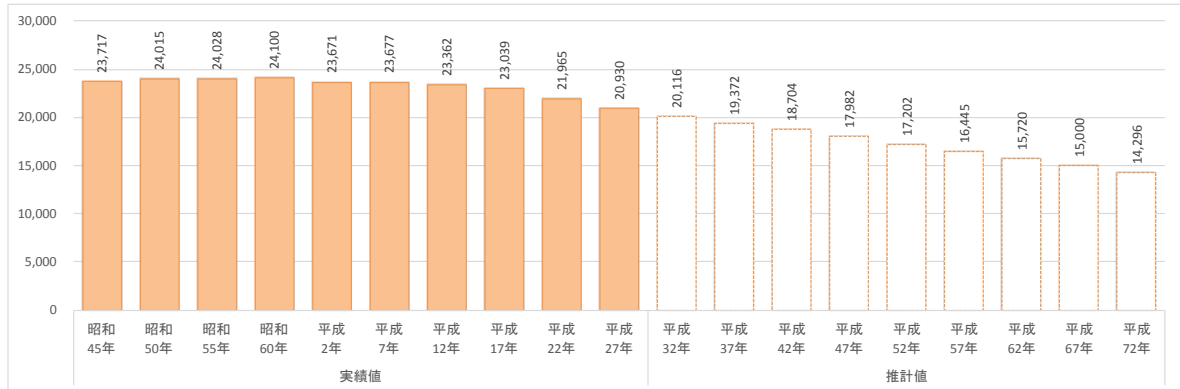
平成 31 年度 第 1 回 上市町地域公共交通活性化協議会

人口概況及び公共交通の現況整理

1 人口概況

人口推移

- ・町の人口は、昭和 60 年まで増加していましたが、それ以降は緩やかに減少しています。
- ・上市町人口ビジョン_推計パターン 4 では、町の人口は平成 37 年に 2 万人を切るとしています。この推計値を基にすると、平成 27 年から平成 37 年までの 10 年間で 1,558 人、7.4%減少します。
- ・上市町人口ビジョン_推計パターン 4 では、平成 37 年以降も人口減少は続き、平成 52 年には 17,202 人となり、平成 27 年から平成 52 年までの 25 年間で 3,728 人、17.8%減少します。



図：上市町の人口推移及び将来推計
(資料：実績値/上市町 第 18 回統計書、第 22 回統計書 推計値/上市町人口ビジョン_推計パターン 4)

※上市町人口ビジョン_推計パターン 4 の人口推計値について

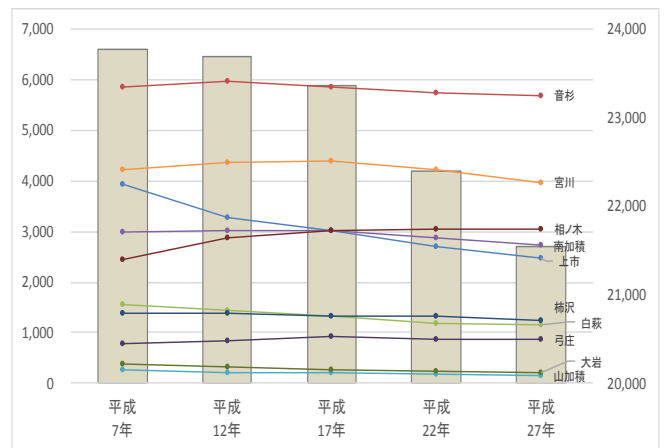
- ・推計人口国立社会保障・人口問題研究所による推計をベースに、出生率が、国のまち・ひと・しごと創生長期ビジョンにおける国民希望出生率である 1.8 に回復すると仮定。
- ・社会移動率は、上市町の過去の実績で最も増加率が高かった、平成 2 年から 7 年にかけての増加率が将来的に維持されると仮定。

地区別人口

- ・平成 27 年の各地区別の人口において、上位 3 地区は音杉 5,687 人、宮川 3,976 人、相ノ木 3,059 人となっています。
- ・相ノ木地区の人口は増加していますが、その他の地区の人口は減少傾向にあります。上市地区では平成 7 年から平成 27 年までに 1,458 人、37.1%減少しています。

表：上市町の地区別人口実績
(資料：上市町 第 18 回統計書、第 22 回統計書)

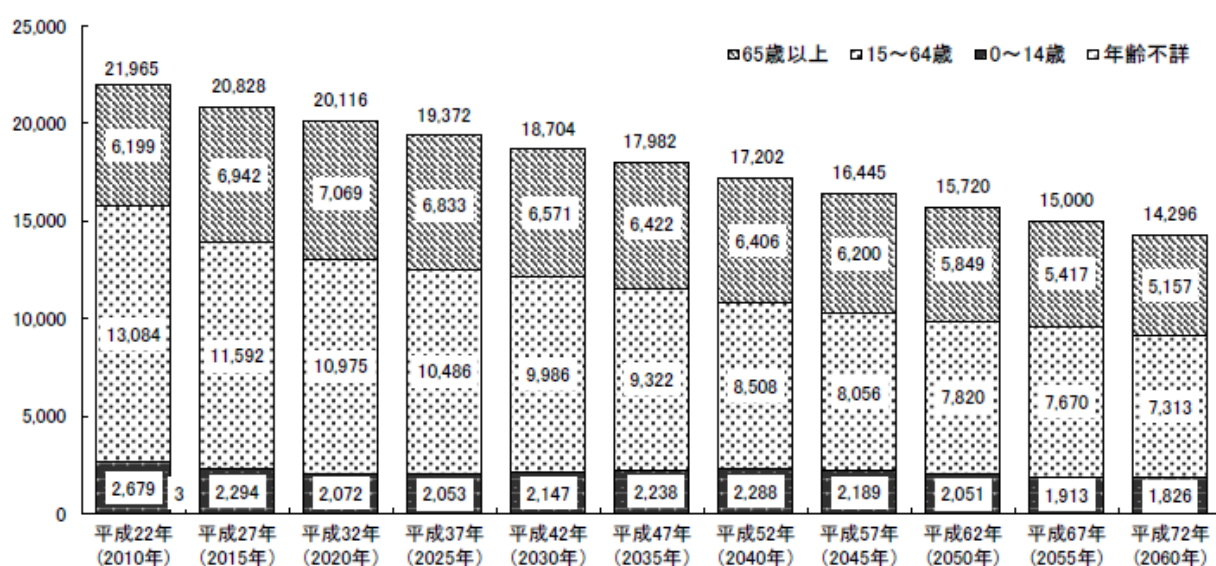
地区名	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
	人口 (人)	人口 (人)	人口 (人)	人口 (人)	人口 (人)
上市	3,925	3,277	3,027	2,703	2,467
音杉	5,849	5,991	5,871	5,761	5,687
白萩	1,563	1,426	1,312	1,186	1,164
南加積	2,999	3,014	3,019	2,866	2,723
山加積	255	218	197	186	156
宮川	4,214	4,365	4,403	4,214	3,976
柿沢	1,385	1,385	1,317	1,323	1,240
相ノ木	2,436	2,867	3,016	3,054	3,059
大岩	367	321	276	244	204
弓庄	788	824	921	868	861
総人口	23,781	23,688	23,359	22,405	21,537



図：上市町の地区別人口実績
(資料：上市町 第 18 回統計書、第 22 回統計書)

年齢3区分別の人口推移と人口構成

- ・平成7年から平成27年までの町の人口構成の推移では、0～14歳の年少人口と15～64歳の生産年齢人口はともに減少傾向にあります。人口ビジョン_推計パターン4を基にした推計値では、年少人口は平成37年まで減少が続き、その後増加傾向となりますが、平成52年以降に再度減少へ転じると推計しています。また、生産年齢人口は今後も減少傾向が続くと推計しています。
- ・平成7年から平成27年まで、65歳以上の老年人口は増加傾向で推移していますが、推計値では平成32年に増加のピークを迎え、それ以降は減少に転じると推計しています。
- ・町内の人口構成比をみると、生産年齢人口は、平成52年に49.5%となり、総人口の半分以下になる見込みです。一方で、平成7年に19.6%であった老年人口は、平成27年に30%を超え、今後平成57年まで増加する見込みです。



図：年齢3区分別の人口構成推移
(資料：実績値/上市町 第18回統計書、第22回統計書 推計値/上市町人口ビジョン_推計パターン4)

2 公共交通の現況整理

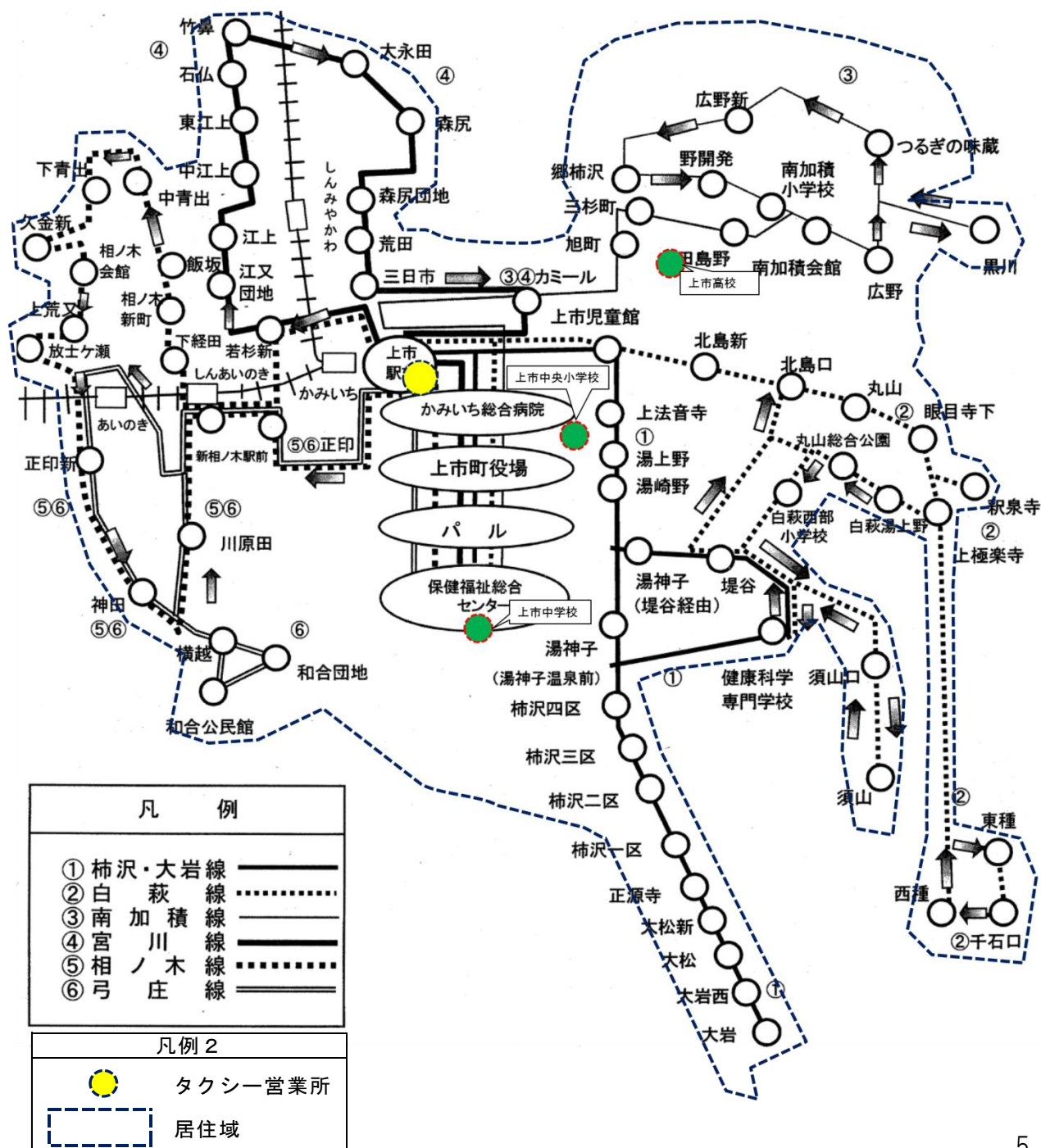
公共交通モード

町における公共交通機関は以下のとおりとなっており、隣接市町村をつなぐバス路線は、ない状況です。

- 鉄道： 富山地方鉄道(株) (町内駅 (相ノ木駅、新相ノ木駅、上市駅、新宮川駅))
- タクシー会社： 2社
- コミュニティバス： 町営バス運行 (道路運送法4条及び79条)
- スクールバス： (3路線 (町営バスと同路線・混乗方式))

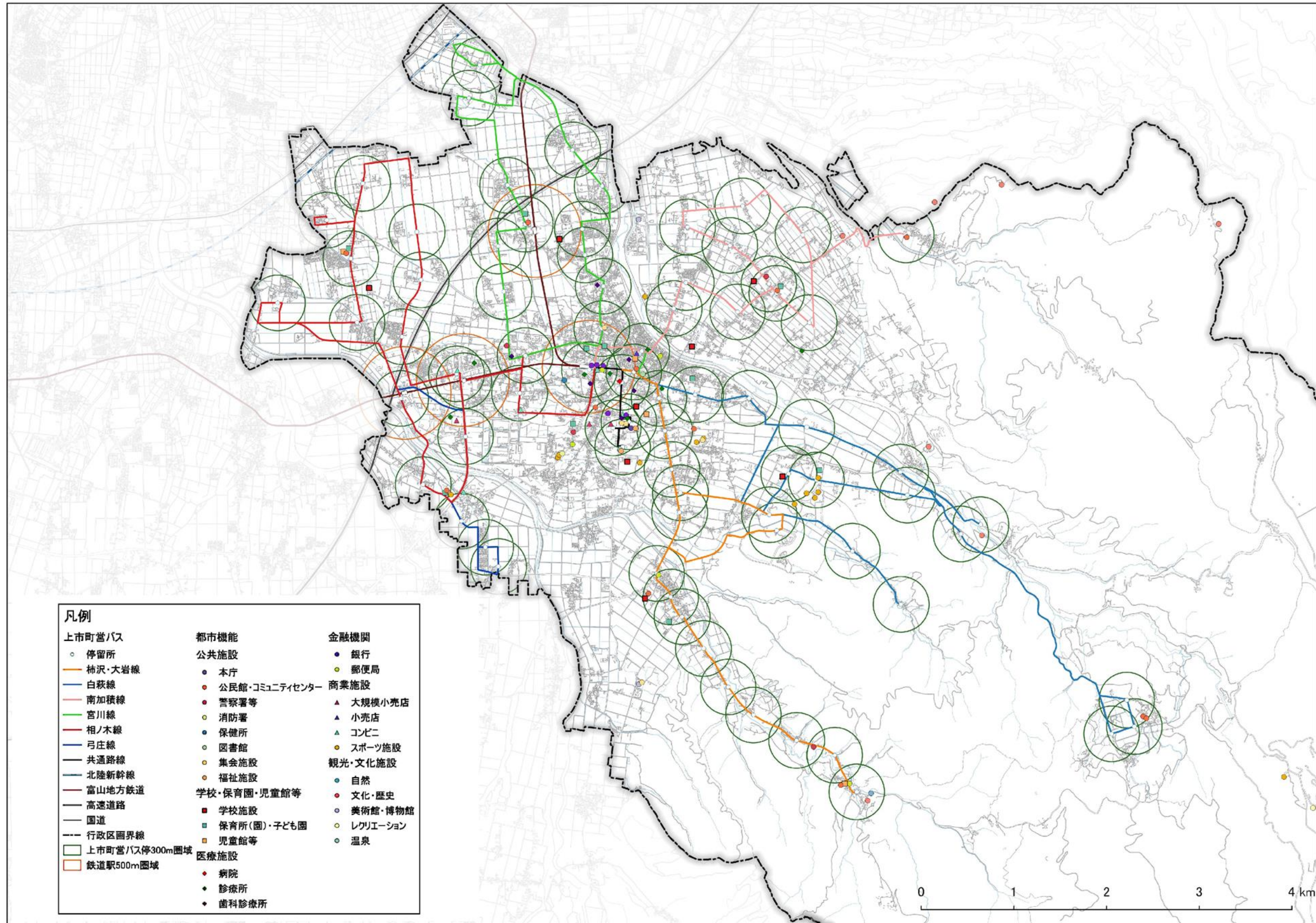
公共交通概況図

町における公共交通を模式的に表すと以下のとおりとなります。



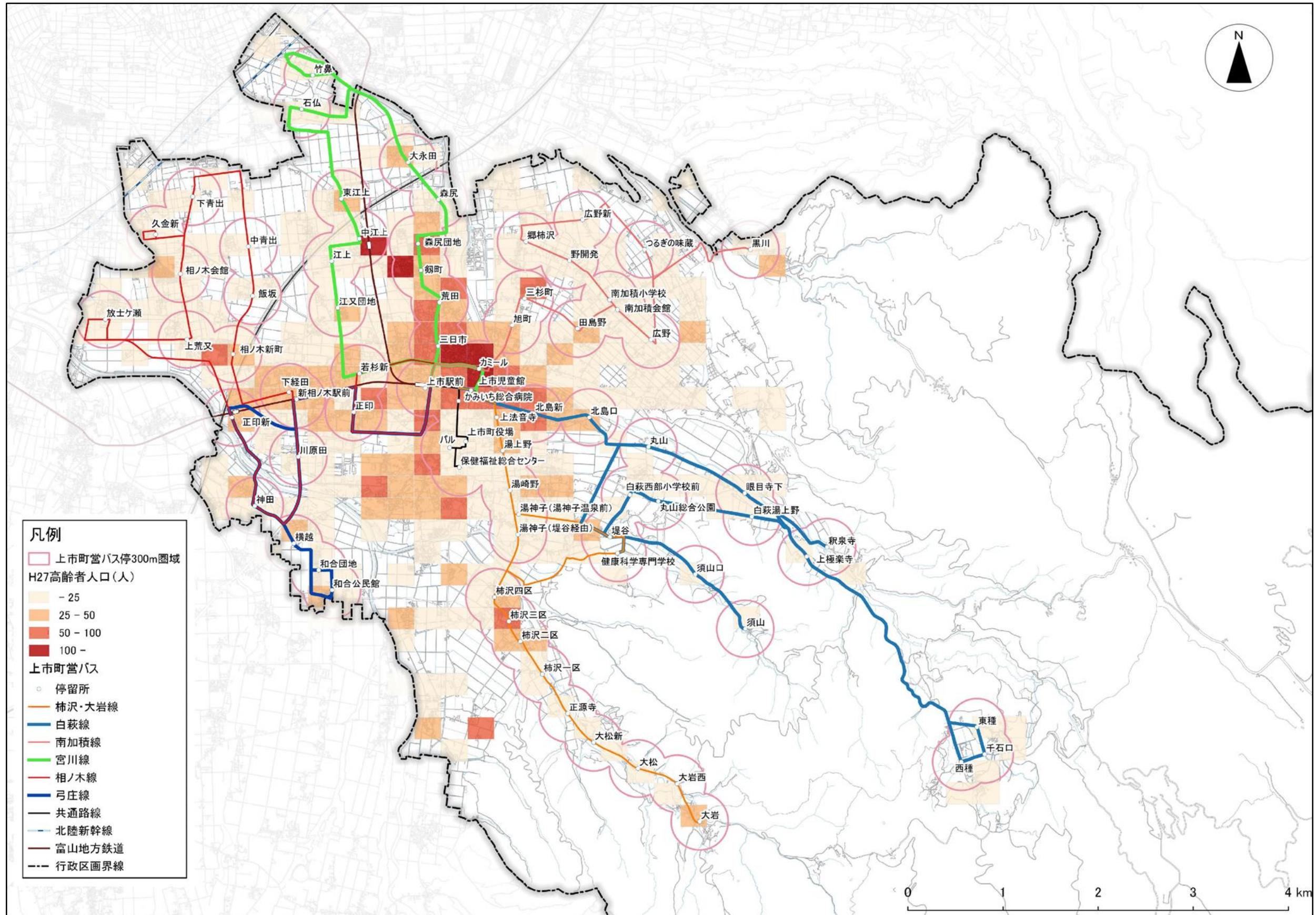
公共交通カバーエリアと都市施設分布図

町営バスのバス停を中心として半径 300m の範囲、鉄道駅を中心として半径 500m を公共交通カバーエリアとして定義した場合に、町南部や北東部の一部においてカバーしきれていない地域が見られます。



町営バス運行ルートと高齢者人口分布

町営バスの運行ルートと高齢者人口の分布を重ね合わせると、人口が多いにもかかわらずバス利用が難しいと考えられる地域があります。



出典：平成 27 年国勢調査
 ※高齢者は 65 歳以上としてある。